A 32　女性にみる社会的ネットワークの現状と課題～中国・四国地域の実態調査を中心に～（第１報）

○広島大学教　中間美砂子　ノートルダム清心女大　浅田幸子　就実短大　足立啓子　ノートルダム清心女大　榎並英子
岡山大教育　遠藤マツヱ　広島文教女大　妹尾勝子　香川県羽藤短大　田窪純子　香川大教育　時岡晴美
山口県庁　中川忍子　広島文教女大短大　長石啓子　広島女学院大短大　冨士田亮子

目的　家族がその機能を縮小するにつれて、リソースとしての社会的ネットワークの形成が必要となってきている。この社会的ネットワークには、家族を原点とするネットワークと個人を原点とするネットワークがあるが、女性における両者の関係を探ることにより、ネットワーク形成にあたっての今後の課題が明らかになると考え、本研究を行った。

方法　中国・四国地域５県の25歳以上の女性1,439 人を対象に質問紙による調査を1990年8 ～10月に実施した。調査内容は、Ⅰネットワークの構造的特性、Ⅱネットワークの機能的特性、Ⅲネットワークの自己評価、Ⅳネットワークの形成意識からなる。本報においては、全体的分析についての結果を報告する。

結果　Ⅰ構造的特性：リンケージ別接触人数、媒体別接触人数をみたが、全ネットワーク人数の平均は61.1人である。近住度の順位は、家族ネットワークの方が高い。Ⅱ機能的特性：日常時のリンケージの活性化状況は、家族リンケージの方が高いが、個人リンケージが30％以上みられる接触内容もある。緊急時リンケージ活性化状況は、家族リンケージが優位を占めるが、公共機関、幼なじみ・同窓生リンケージの活性化もみられる。Ⅲ自己評価：全体としては家族ネットワークが高いが、リンケージにより接触度順位、親密度順位、依存度順位は異なる。Ⅳ形成意識：個人ネットワーク拡大希望の方が高いが、拡大努力は、義務的な行事への参加の方が積極的で、自主的形成努力は十分とはいえない。